

小山で昨年、米づくりをした大椎小学校5年生（当時；大椎小としては4回目の米づくりになります）の皆さんへのYPPスタッフ金谷さんからのメッセージをご紹介します。

大椎小田んぼ第四期生のみなさんへ

こんにちは。一年間の田作り、大変おつかれさまでした。みなさんといっしょに楽しい時間をすごさせていただきました。どうもありがとうございました。
 とつぜんですが、下の数字を見てください。

(あ)	210
(い)	1900
(う)	5000
(え)	600000000000
(お)	3770000000000

これらの数字がなんだか分かりますか？ これらは土地のだいたいの面積です。単位は「平方メートル」です。1メートル×1メートルで1平方メートルです。それぞれ何の面積でしょう？

答えは…

(あ)	210平方メートル…大椎小田んぼの面積
(い)	1900平方メートル…世界で一秒間に砂漠化している面積
(う)	5000平方メートル…大椎小の校庭の面積
(え)	600000000000平方メートル…世界で一年間に砂漠化している面積
(お)	3770000000000平方メートル…日本の面積

「砂漠化（さばくか）」というのは、森や草原だったところが荒れてしまって、植物がほとんど育たない砂漠になってしまうことです。これらの数字がどういうことかといいますと、

- * (え) と (お) からわかること…世界のどこかで、日本の約六分の一と同じ面積が、一年間で砂漠になっている
- * (い) と (う) からわかること…世界のどこかで、大椎小の校庭と同じ面積が、約2.6秒で砂漠になっている
- * (あ) と (い) からわかること…世界のどこかで、大椎小田んぼと同じ面積が、約0.1秒で砂漠になっている

…ということです。ぼくは、初めてこのことを知った時、とてもおどろきました。みなさんはどうでしょうか？ 中には、「あんなに苦労したのに、あの田んぼと同じ面積がいっしょんで砂漠になっているなんてばかばかしい」と感じた人もいるかもしれません。

でも考えてみましょう。みなさんが何をしても、たとえ、だまってすわっているだけだとしても、世界のどこかでは確実に砂漠がふえているのです。まばたきをしたいっしょんで大椎小田んぼと同じくらいの面積。あくびをした数秒間で大椎小の校庭と同じくらいの面積。勉強していても、食事をしていても、遊んでいても、ねていても、つねにどこかで砂漠がふえているのです。

大椎小田んぼはたしかに小さいかもしれま



せんが、あの田んぼで田作りすることはとても大切な意味があります。

ひとつは、住んでいる場所のすぐそばで食べ物を作ること。外国など、遠くでできた食べ物を千葉で食べるためには、たくさんのエネルギーが必要になります。でも歩いていける大椎小田んぼでとれたお米は、みなさんが自分で運んだので、少しのエネルギーですみますね。

また、みなさんは農薬や殺虫剤はまったく使いませんでしたので、いろんな生き物がたくさん田んぼで育ちました。みなさんは稲だけでなく、たくさんの生き物も育てたことになるのです。みなさんがいなかったら育たなかった生き物がたくさんいたはず。いろんな生き物がたくさんいる田んぼでは、稲はとても健康に育ちます。その稲からとれたお米を食べたみなさんも健康になります。

さらに、みなさんは農業用の機械（トラクターやコンバイン）もまったく使いませんでした。人手での田作りは大変そうに見えますが、実は消費エネルギーが一番少ないのです。一番自然をいためずにお米を収穫したのです。

そして何より、体全体で感じたことは時間がたってもわすれにくいものです。田んぼのどろの中に初めて入った時のことや、初めてかまで稲をかいた時のことをおぼえていますか？ たとえ全部はおぼえていなくても、いくらかはおぼえているのではないかと思います。たとえみなさんの頭がわすれてしまっても、みなさんの手や足はわすれないと思います。いつか、そのきおくがみなさんの役に立つと信じています。

最後をお願いをひとつだけ。ここに書きましたように、今はものすごいいきおいで砂漠が増えています。だから、一秒一秒を大切に生きてください。「勉強をたくさんしてください」と言っているわけではありません。遊ぶときは思いっきり遊んでください。遊ぶこともとても大切です。つかれたときはしっかり休んでください。食事の時は楽しくあじわってください。勉強が得意な人、スポーツが得意な人、ゲームがうまい人、習字が得意な人、楽器の演奏が得意な人、絵をかくの好きな人、読書が好きな人など、いろいろだと思います。なんでもいいので、自分が好きなことをできるだけたくさん楽しんでください。それがいつか、この世界を良いほうにかえることになるかと信じています。

みなさんとは、おみそじこみ、田植えと草取り、稲刈り、脱穀の五日間をとても楽しくすごさせていただきました。ぼくの教え方はあまりじょうずではなかったかもしれませんが、みなさんの農業の先生役をさせていただいたことをとてもうれしく思います。小山YPPの時など、ぜひまた遊びにいらしてくださいね。

平成二十三年三月十一日

こころ自然農園

大谷 祥

(ちば環境情報センター・小山YPPスタッフ)

P.S. ↓小山YPPの予定は、ちば環境情報センターのホームページをみてくださいね！

<http://www.ceic.info/>。

谷津田いきもの図鑑 No. 50

サワガニ

わき水の近くで暮らすサワガニは、わき水が豊富な谷津ならでの生きもので、近くで水がわき出している田んぼに入ってくることもあります。地元では「シミズ（清水）ガニ」と呼ぶ方もいて、環境省では「きれいな水の指標種」としてリストされています。体が暗い褐色で足に赤みがかっているのが一般的ですが、谷津では右の写真のように青白いサワガニをよく見かけます。オスでは、はさみの大きさが左右で違って、右が大きい個体が多いようです。

一生を川で暮らしているのはカニとしては珍しく、たとえば、モズクガニは産卵のために海に下ります。春～初夏に産んだ卵はメスがお腹にだいに抱えて守り、孵化した子どものカニもしばらくの間はお母さんガニのお腹で過ごします。他のカニに比べると卵が大きく（2~4^{ミリ}）、産卵数が少ないのは親がしっかり守ってくれるからでしょう。海のカニは孵化してしばらくはカニらしくない見かけの小さな幼生が水中を浮遊して成長しますが、サワガニは卵から親と同じ形の子ガニが出てきます。ただ、成体になるまで4~5年かかるそうです。餌は雑食で、藻（も）を食べたり、虫やカエルなどの遺骸を食べたりしているのを見かけたことがあります。食用として唐揚げや佃煮にして食べられていて、とてもおいしいことをご存じですか？

(高山邦明)





里山たんけんレポート

第 135 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2011年4月3日(日) くもり

どんよりと曇った寒い一日になりました。例年ですとタチツボスミシやフデリンドウがいっぱいなのですがタチツボスミシがぼつぼつ咲いている程度でした。季節の巡りが遅いようです。太陽が出なかったせいで花々も開かないものが多くさみしい感じがしました。ちょうど花期にあたったアマナの生態を資料に入れましたが蕾状態で開いていなかったのは残念でした。でも、日が当たらないと開かないのもアマナの生態のひとつでやむをえません。田んぼでは二ホンアカガエルのオタマジャクシが元気に泳ぎ、アズマヒキガエルはひも状の卵塊から孵化しているところでした。

今日の特記はオシドリです。下流部の沼の所の水路に潜むようにしていましたが人影を見て奥の方に入ってすぐ見えなくなってしまい皆で見る事が出来ませんでした。でも、谷津南側の道すがらの斜面林下の土水路から2羽の雌が飛び出し我々の進行方向の土水路に降り、再び飛び出し、飛び姿をみんなで見る事が出来ました。ウグイスは絶え間なく囀っていました。冬鳥は少なくなりましたがアオジ、カシラダカがいました。あまりの寒さのためか、昆虫は全く見かけませんでした。

(参加者 大人 10名、子ども 4名； 報告：網代春男)

第 119 回 下大和田 YPP「苗代づくり」

2011年4月9日(土) 小雨

時折小雨が降るあいにくの天気となってしまう、参加者も少なかったのですが、有志の方が事前に苗床をつくってくださったお陰で、モミまきからビニールシート掛けまで短時間で終わらせることができました。蒔いたのはコシヒカリと古代米の赤米、黒米、緑米、そしてコシヒカリのお父さんにあたる農林一号です。モミが重ならないように均一に蒔いてから手でそっと押さえて泥の中に埋めます。シート掛けはみんなの協力作業。2人でシートを掛け、竹を渡し、シートのすそを泥に埋め込んで完成。立派な苗代ができました。

ツバメが時折、上空を舞い、田んぼではあちこちでタガラシが黄色い花を開いていました。カップルになったモズが田んぼの近くの木に止まっていた。この陽気で苗はしっかり育ってくれることでしょう。

(参加者：大人 8名、小学生 1名；報告：高山邦明)



第 65 回 小山町 YPP「苗代づくり・学校田んぼづくり」

2011年4月10日(日) 晴れ

3月にはじまった地元あすみが丘小学校の田んぼづくりはその後、平日に保護者のみなさんが集まって作業を進め、少しずつ田んぼらしくなってきました。5月末の田植えに向けて、今日は先生やボランティアの方々が大勢集まってくれました。隣の大椎小学校の田んぼは今年で4年め。こちら草取りや畦の補修にたくさんの皆さんがかけつけてくださり、小山は人でいっぱい、道具が足りないほどで、とてもにぎやかな作業になりました。アカガエルやシュレーゲルアオガエルが飛び出してきたり、希少種の水生昆虫が見つかったり、作業しながら自然観察もたくさんできました。あすみ小田んぼはあともう少しで開墾が終わりそうです。大椎小の方はいつでも田植えOKです。

田んぼの一角にはコシヒカリの苗代を作って、みんなでモミを蒔きました。田んぼに暮らすカルガモはモミが好きらしいので、ネットを張って防備！田植えまで1ヶ月半。しっかり育ってくれるようみんなで願いました。



(参加者：大人 29名、小中高学生 13名 報告：高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 4月10日 あちこちでベニシジミを見かける。アズマヒキガエルの産卵を確認(高山)。
4月17日 春の畦の草花がほほ咲きそろう。シオヤトンボが田んぼで縄張りを張っていた。去年生まれのニホンアカガエルが冬眠から目覚めて田んぼで跳ねていた。畦にイタチが出てきてびっくり！(高山)。
5月1日 田んぼの畦のあちこちにシュレーゲルアオガエルの卵塊があった。田んぼの上空をサンバが飛翔(高山)。

下大和田

- 4月9日 田んぼの上をツバメが飛翔(高山)。
4月16日 アオダイショウの子が出現(網代)。
4月18日 イタチが畔に出現(網代)。
4月24日 千葉高生物部の観察会がありました。ニホンカワトンボ、アジアイトトンボ今年初見。シオヤトンボは産卵していました。春の蝶、ツマキチョウが見られました(網代)。
4月25日 ヤマサナエの羽化が始まりました。4月30日まで道路脇の水路で76頭が羽化しました。(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも)：ちば環境情報センター (TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/)

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第121回「田植え」

今年も昨年同様、コシヒカリと古代米の両方を一緒に田植えします。さわやかな新緑の谷津で気持ちの良い汗を流してみませんか？ 小さなお子さんも参加できますよ。

日時： 2011年5月14日(土)：予備日15日(日) 10:00~14:00 小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物： 弁当、飲み物、長靴(長め、できればホームセンターで販売している田植え用長靴)、軍手、敷物など。

参加費(資料代等)： ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

▼第137回 下大和田6月の谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルは子ガエルになって畔に出ている頃です。その子ガエルを狙って蛇も出てきます。トンボの種類も増えました。クリ、ウツギ、ガマズミなどの花には様々な虫が来ています。生きものが賑わう谷津を巡ります。

日時： 2011年6月5日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田YPPに同じ)

集合： 下大和田YPPに同じ

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円(小学生以上、資料代など)

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

▼第66・67回 小山町 YPP「田植え」

コシヒカリと古代米の田植えをします。泥の感触を楽しみながらみんなでぎやかに植えましょう。小さなお子さんも参加できますのでぜひご家族でいらしてください。

日時： 2011年6月4日(土)および11日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物： 飲み物、長靴(長めがいいです)、帽子、軍手、敷物。

参加費： 100円(小学生以上、資料代など)

主催： ちば環境情報センター

編集後記 カワセミのくちばしからヒントを得て、新幹線のデザインが生まれた話は有名ですが、同じように「自然に学ぶものづくり」がますます盛んになっているようです。フクロウやトンボの羽をならって静かで効率のよいエアコンのファンを開発、タマムシの羽の金属光沢の源である構造色(とても細かな構造による発色)を調べて退色しない色を作り出したこと、カタツムリの殻の構造から建物の外壁の汚れ防止技術が生まれたことなど、谷津で見られる生きものも技術開発に貢献しているようです。生物多様性の高い谷津の自然の価値の一つですね。そんなことも考えながら谷津の自然観察をしてみたいと思います (高山 邦明)